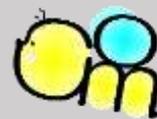


教科に関する調査結果



- 1ページ目には、概要版で示した各教科の結果概要と結果チャートと該当教科の対全国比経年比較のグラフ、今年度の結果から「がんばりが見えたところ」を載せています。
- 2ページ目には、「調査結果から見えた課題」と、学力向上に向け、「学校では、このようにやっています」、「家庭では、こんなことをやってみましょう」、そして、今回の結果から「効果があった学校の取組例」を載せています。また、大阪市の取組と関連付けるよう欄外に関連を示すページを載せています。
- 3・4ページ目には、A問題の課題と指導のポイント、B問題の課題と指導のポイントを示しています。それぞれの指導のポイントの横にあるは、「wakukonbee (大阪市の授業のスタンダード)」の3つの学^{まなび}beeをそれぞれ表しています。詳細については28ページに掲載しています。



「考え表現する学^{まなび}bee」



「話し合う学^{まなび}bee」



「めあてを振り返る学^{まなび}bee」

小学校国語

P 5

小学校算数

P 9

中学校国語

P 13

中学校数学

P 17

A問題 平均正答率：71%（全国：74.8%） 平均無解答率：3.0%（全国：2.8%）

B問題 平均正答率：53%（全国：57.5%） 平均無解答率：4.6%（全国：4.3%）

結果チャート

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

平均正答率及び平均無解答率については、P.2の表を参照のこと。

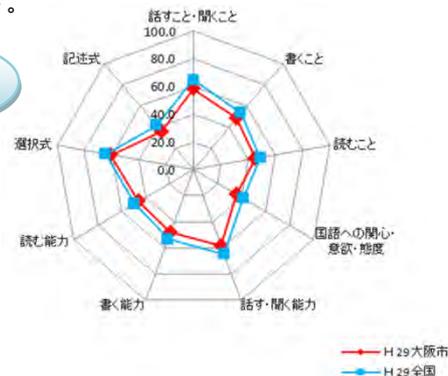
A問題では、「書く能力」等の項目で低い値を示しています。

B問題では、「読む能力」「記述式」等の項目で低い値を示しています。

国語 A



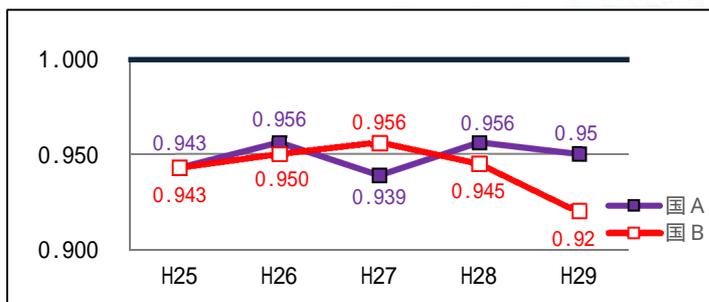
国語 B



対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成25, 26, 27, 28, 29年度を取り上げています。

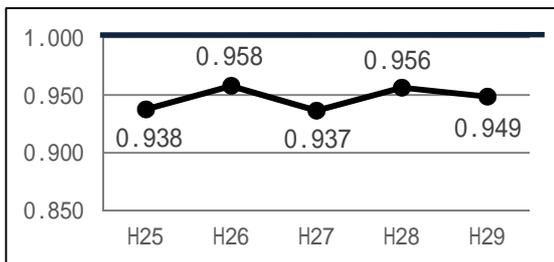
グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語A・国語Bの大阪市の割合を表したものです。



「言語についての知識・理解・技能」にがんばりが見られます

国語 A 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題にがんばりが見られます。

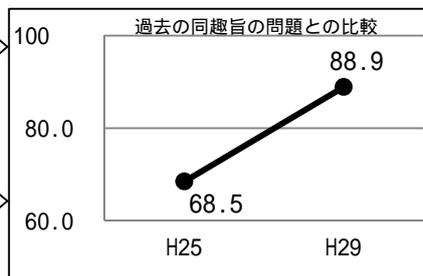
国語 A 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題の対全国比



【H25】ことわざの意味として適切なものを選択する問題(A[2]ー)「石の上にも三年」

【H29】ことわざの使い方の例として適切なものを選択する問題(A[5]ア)「三度目の正直」

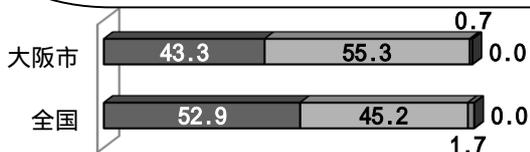
ことわざの意味を理解する問題の正答率



授業では基礎・基本の定着をめざした指導が行われています。

学

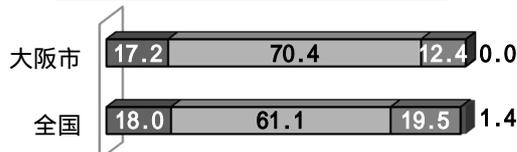
漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った(肯定的回答 大阪市:98.6% 全国:98.1%)



肯定的な回答が全国を上回っています

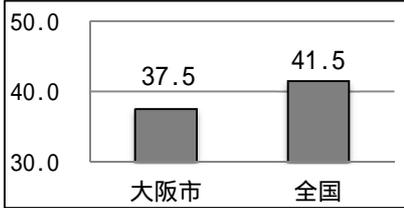
学

国語の指導として補充的な学習を行った(肯定的回答 大阪市:87.6% 全国:79.1%)



手紙の構成を理解することに努力が必要です

手紙の構成を理解し、後付けを書く問題の正答率

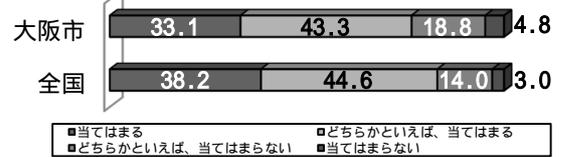


手紙の後付けに必要な日付、署名、宛て名の位置について選択する問題 (A[2]二)

肯定的な回答が全国を下回っています

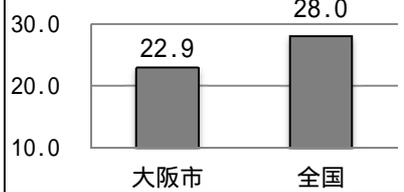
児

授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活にいかしている (肯定的回答 大阪市:76.4% 全国 82.8%)



自分の考えを広げたり、深めたりするための発言の意図を捉えることに努力が必要です

発言の意図を捉える問題の正答率



話し合いの中で発言の意図として適切なものを選択する問題 (B[3]二)

肯定的な回答が全国を下回っています

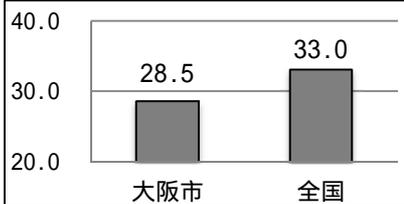
児

学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた (肯定的回答 大阪市:78.9% 全国 84.5%)



目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに努力が必要です

アドバイスを基に募集文を書く問題の正答率

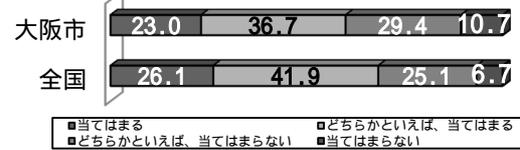


【アドバイス】文を基に水やりに協力してくれる人を募集する文を書く問題 (B[2]三)

肯定的な回答が全国を下回っています

児

目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている (肯定的回答 大阪市:76.4% 全国 82.8%)



学校で

- 自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら他者と交流することで、自分の考えが明確になるということを実感できるようにします。
- 言語活動の充実を図り、話し手の意図を捉え、話す力と聞く力を育みます。
- 学校力UPベース事業(習熟度別少人数授業)を通して、学習への意欲を高めるとともに、個に応じた指導を進めます。
- 「学習教材データの配信」などを活用し、漢字や語句の意味など、基礎的・基本的な事項の定着や知識を活用する力を育みます。
- ICT機器の活用により、視覚的に分かりやすい授業を行い、子どもが教え合い学び合う協働的な学びを進めます。

家庭で

- 日常会話で相手の話を注意深く聞き、話の展開に応じて様々な内容を話すようにしましょう。
- 日々の発見や感動した出来事をノートに書くようにしましょう。
- 興味関心のある事柄を、本や辞典、インターネットなどを活用して調べてみましょう。

効果があった取組例

- 「学習教材データの配信」を活用して、漢字など基礎・基本の定着を図っています。
- 習熟度別少人数授業を計画的に行い、個に応じた学習を進めています。
- 自分の考えをしっかりとらせて、話し合う活動を行っています。
- 学校図書館の整備を図り、読書タイムを設定し、本に触れる機会を多くしています。
- 低学年から朗読を取り入れ、表現性を高めて伝え合う活動を行っています。
- タブレット端末などのICT機器を使い、表現力・伝達力を高める取組を行っています。

大阪市の取組

「学習教材データの配信」(P.40)「学校力UPベース事業の実施」(P.41)「主体的・対話的で深い学びの推進」(P.42)「ICTを活用した教育の推進」(P.44)「学校図書館活性化事業の実施・学校図書館活用推進事業の実施」(P.44)

課題と指導のポイント

【国語 A】(主として「知識」に関する問題)

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題
 全国と比べて平均正答率の差が大きい問題
 大阪市として継続して課題が見られる問題

課題

手紙の構成を理解し、後付けを書くこと

- 2二 **設問の概要** 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する。
 [正答率 大阪市:37.5% 全国:41.5%]

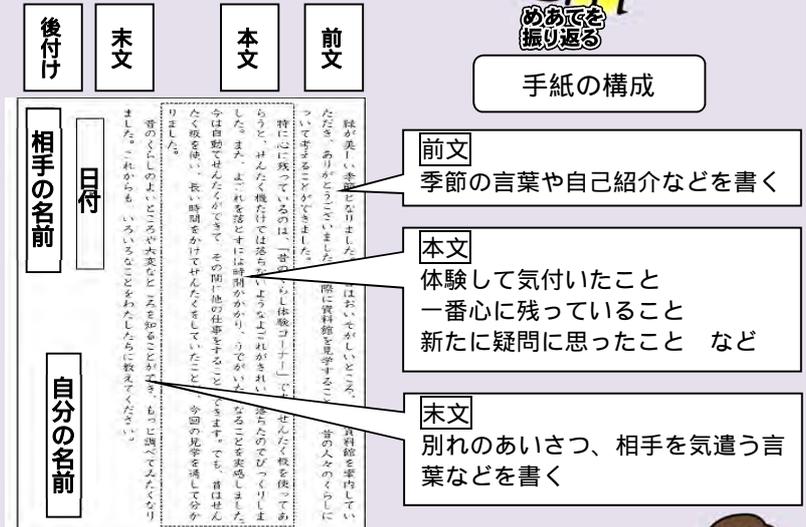
学習指導要領における領域 [第5学年及び第6学年] B 書くこと

指導のポイント

基本的な構成に基づいて手紙を書くことができるようにする

手紙を書く際は、「前文」、「末文」、「後付け」といった手紙全体の構成や、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった手紙の基本的な形式などについて指導することが大切である。

手紙を書く学習活動を、国語科と関連を図りながら、各教科等に意図的、計画的に設定することが重要である。



縦書きの手紙の場合、相手の名前を最終行の上の位置に書くことで、相手への敬意を示すことにつながります。手紙の形式がもつ意味を理解しておくことが大切です。



課題

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと

- 7 **設問の概要** 漢字を書く。(1) 参加たいしょう [正答率 大阪市:33.4% 全国:42.0%]
 漢字を書く。(2) 4年生のきぼう者 [正答率 大阪市:64.5% 全国:80.0%]

学習指導要領における領域 [第5学年及び第6学年] 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント

国語辞典や漢字辞典の利用を習慣付け、当該学年までに配当されている漢字を習得できるようにする

学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるような指導の工夫が必要である。

語彙を広げながら正しく適切に漢字を表記できるようにするためには、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べたり、類語辞典などを用いて語句の適切な使い方を調べたりする習慣を付けることが大切である。そのためには、辞典利用について学習する第3学年から意図的、計画的に指導することが必要である。

具体的な指導事例

- 1 平仮名で書かれた文章を、学習した漢字を用いて書き直す。
- 2 書いた文章を比較して適切に漢字を用いることの良さについて話し合う。

ノートなど自分の書いた文や文章の中で漢字を正しく使うことができているか振り返る時間をもつようにしましょう。



具体的な指導事例

- 1 同音異義語の例を示し、その他の同音異義語を教科書などから探す。
- 2 探した同音異義語の意味や使い方を整理して、カードをまとめる。

作成したカードを掲示したり、まとめておいたりするなど、必要なときには、いつでも使えるような言語環境をつくりましょう。



【国語 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと

2三 設問の概要

「水やりに協力してくれる人をば集めます」の

イ に入る内容を、中学生の【アドバ
イス】を基に書く。
〔正答率 大阪市:28.5% 全国:33.0%〕

学習指導要領における領域

[第5学年及び第6学年] B 書くこと

指導のポイント

目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことができるようにする



読み手に自分の考えが伝わるような文章を書くためには、目的や意図に応じ、取材した情報から必要な内容を整理することができるように指導していくことが大切である。

国語科のみならず、各教科等においても、意図的、計画的に設定することが必要である。

必要な事柄を整理し簡単に書く場合



どのような構成で内容が組み立てられているのかを捉えることができるようにしましょう。

はじめ
なか
おわり

去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとても大変だったなあ。
まず、毎朝水をやらないとすぐにかれてしまうんだ。朝、水やりをわすれて、昼休みにあわてて見に行ったらしおれかけていたこともあったよ。
それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木ばちの水をやる必要があるんだ。植木ばちの数はどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。
水やりは大変だったけれど、すずしい夏が過ごせて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。
何かこまったことがあったらいつでも相談にのるよ。がんばって作ってね。

話題

大変だった理由 と事例

大変だった理由 と事例

まとめ

事実と感想、意見などを区別した上で、目的や意図に応じて、詳しく書く場合と、簡単に書く場合とを適切に判断できるように指導することが大切です。



課題

発言の意図を捉えること

3二 設問の概要

「きつねの写真」を読んだあとの話合いにおけるア・イの発言の意図として適切なものを選択する。

〔正答率 大阪市:22.9% 全国:28.0%〕

学習指導要領における領域

[第5学年及び第6学年] C 読むこと

指導のポイント

物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする



ものの見方や考え方を広げるために、物語を読んで感想を伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導することが大切である。

物語を読んで感想を伝え合う場合



まず、自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしましょう。

<友達の考えを聞いて



それは、どこからそう思ったの。



さんの言いたいことは・・・ということなんだね。



相手の考えがどの叙述に基づいているのか明確にするために、お互いに質問し合い、補充し合うことが大切です。

授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成29年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例」P.3~8
国立教育政策研究所ウェブサイト <http://www.nier.go.jp/jugyourei/h29/idea-plang.html>